

いたち川の無脊椎動物（昆虫を除く）

著者	布村 昇
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	10
ページ	73-76
発行年	1987-03-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=531

いたち川の無脊椎動物 (昆虫を除く)*

布村 昇
富山市科学文化センター

Macro benthic fauna of the Stream Itachigawa

Noboru NUNOMURA
Toyama Science Museum

The macro benthic fauna of invertebrates (excluding insects) was surveyed. 12 species belonging 4 phyla were reported herein from 10 stations and some supplemental stations. An isopod, *Asellus hilgendorfi* and a non-blood sucking leech *Erypobdella lineata* were two most dominant species.

1. 調査法

ハンドソーティングによって川底の昆虫を除く無脊椎動物を採集した。採集は各地点20分程度の時間に、長さ10-20mの範囲を、たも網による水草のしごき、川底の石の表面をスポンジでこする等の方法により採集を行った。なお、渦虫の同定は藤女子大学教授川勝正治博士による。

に見られた。この種類は貧腐水性と考えられている種類である。

2. 調査の結果

3回の一斉調査、2回の予備調査、1回の補助調査の結果、4動物門にわたる次の12種の動物を確認した。

軟体動物 Mollusca

腹足綱 Gastropoda

中腹足目 Mesogastropoda

カワニナ科 Pleuroceridae

カワニナ *Semisulcospia libertina* (GOULD)

本種はホタルの餌になる貝として最も重要なものであるが、いたち川本流では、のべ3回の調査でわずか8個体を確認したにすぎない。しかし、本年、近隣の水田や用水でかなりのカワニナの生息が確認されており、いたち川で見られるかなりの数のホタルの餌は、これら近隣のカワニナにおうところが大きいと考えられる。

扁形動物 Plathyhelminthes

渦虫綱 Turbellaria

三岐腸目 Tricladida

プラナリア科 Planariidae

ナミウズムシ *Dugesia japonica japonica* ICHIKAWA et KAWAKATSU

秋季の調査においてのみ、St.1とSt.2においてやや大きめの石の下

基眼目 Basommatophora

モノアラガイ科 Lymnaeidae

モノアラガイ *Radix auricularia*

*富山市科学文化センター研究業績第62号

japonica JAY

本種は St.2 以降の各地点に見られたが、特に St.8 の左岸の泥の干潟に多数見られた。

サカマキガイ科 Physidae

サカマキガイ *Physa acuta*
DRAPARNAUD

St.2 から St.8 に至るまで少数ながら確認された。強腐水性を指標する種であるが、上流部であっても下水の出口が近くにあるところに時々見られた。

環形動物 Annelida

貧毛綱 Oligochaeta

後生殖門目 Opisthoptera

ヒモミズ科 Criodriidae

ヤマトヒモミズ *Criodrillus bathybat* STEPHENSEN

本種は比較的清冽な水の石の下に比較的少数見られた。

ヒル綱 Hirudinea

咽蛭目 Pharyngobdellida

イシビル科 Erpobdellidae

ナミシビル *Erpobdella octoculata*
(LINNAEUS)

St.2 を中心に次種とともに生息が確認された。

シマイシビル *Erpobdella lineata*
(O. F. MÜLLER)

St.2 以降に極めて多数確認された。 α 中腐水性とされるがより清冽と考えられるところにもかなり多数確認された。

マネビル *Mimobdella japonica*
BLANCHARD

St.6 にわずかに 1 個体確認された

だけであった。

吻蛭目 Rhynchobdellida

グロシフォニ科 Glossiphoniidae
ヌマビル *Helobdella stagnalis*
(LINNAEUS)

St.4 から St.7 にかけて確認されたやや少ない α 中腐水性の種類。

節足動物 Arthropoda

甲殻綱 Crustacea

等脚目 Isopoda

ミズムシ科 Asellidae

ミズムシ *Asellus hilgendorfi*
BOVALLIUS

全地点で確認され、しかも極めて多産している。 α 中腐水性の種とされるが、より清冽な水にも多い。

十脚目 Decapoda

ザリガニ科 Astacidae

アメリカザリガニ *Procambarus clarkii* (GIRARD)

外国産の動物で、富山県においてはまだそれほど広まっただけではない。いたち川では下流部である程度生息しているのが確認された。

イワガニ科 Grapsidae

モクズガニ *Eriocheir japonicus*
DE HAAN

下流にやや多いカニで、海から上がってきたもの。古くから、オスのはさみ脚にふさ毛があるので、「ケガニ」の名で地元の人たちになじみの深い種類であった。 α 中腐水性の生物とされているが、適応範囲の広い種類といえよう。

いたち川の無脊椎動物（昆虫を除く）

表一 いたち川における大型底生無脊椎動物確認個体数

種名	1		2		3		4		4'		5		5'		6		7		8		10			
	馬瀬口	北陸自動車道	太田橋	清流橋	いたち橋	しんせん橋	雪見橋	松川合流点	八田橋	四ツ屋橋	神通川合流点													
扁形動物	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
ナミウズムシ	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
軟体動物																								
カワニ	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ナメカイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モノアラガイ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サカマキガイ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環形動物																								
シマイシビル	0	0	0	10	17	11	17	8	10	10	9	13	0	10	3	38	5	8	0	4	4	14	1	3
ヌマビル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
ナミイシビル	0	1	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マネビル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤマトヒモミズ	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
節足動物(甲殻類)																								
ミズムシ	0	3	4	36	8	35	20	37	14	5	17	4	0	10	6	40	6	8	0	5	0	2	1	31
アメリカザリガニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
モクズガニ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
種類数	3	8	4	5	4	4	7	4	5	4	5	4	7	4	5	6	3	3	5	6	3	6	3	3
OS	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
OS~am	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
βm~am	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
am	2	4	2	2	2	2	3	3	3	2	2	2	3	3	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2
PS	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	2	2	0
不明	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 底生無脊椎動物相からみたいたち川

底生無脊椎動物に関する限り、リーベマン法(優占種法)によるといたち川は、はっきりした α 中腐水性を示すが、実際には各種の示す生息範囲はかなり広く、 α 中腐水性とされている動物でも、 β 中腐水性の水等にも出現することがよくある。本動物群から見ると概してSt.1-St.4までは β 中腐水性的色彩が濃く、St.5またはSt.6以下は α 中腐水性であるといった方が良いのではないだろうか。

また、調査者の記憶によると30年前、この川の水系である冷川や、四ツ谷川等で普通に見られた吸血性のヒル類やオオタニシ等は今回の調査では全く確認されなかった。逆にミズムシ、シマイシビル、アメリカザリガニ等はかつてあまり見られなかったが、今回増加したように思われる。

参 考 文 献

- 岡田 要, 内田清之助, 内田 亨, 1965. 新日本動物図鑑 上, 中, 下-北隆館
上野益三編, 1973. 川村淡水生物学 760p 北隆館
Whiteman, C.O., 1886. The leaches of Japan. Quart.J.micro.Sci., 26 : 317-416.